

平成24年8月30日

熊本市議会議員の皆様へ

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康

連絡先 熊本市島崎4丁目5-13

電話 090-2505-3880

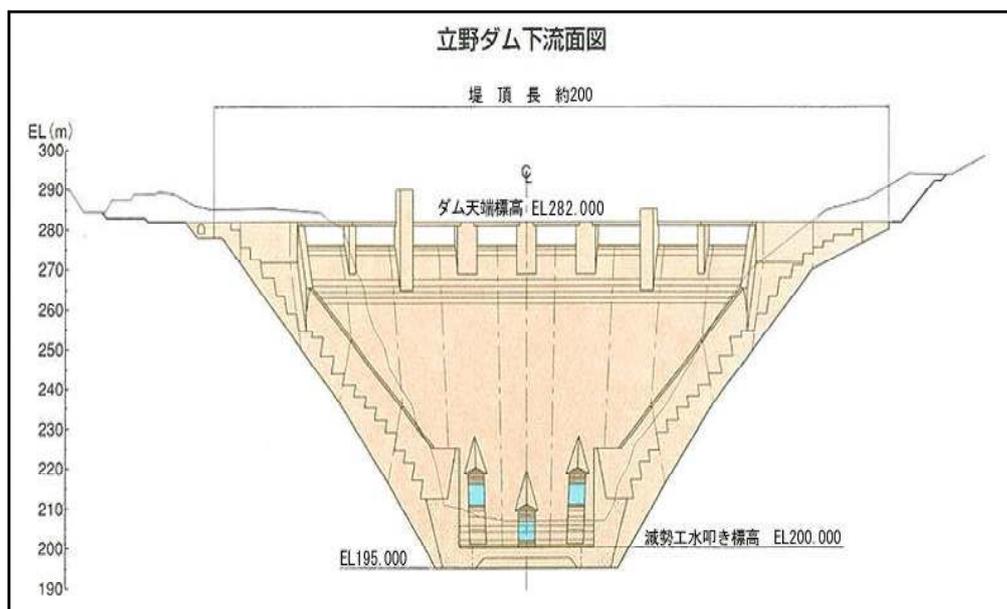
立野ダム建設に関するお願い

熊本市議会議員の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。熊本市議会で立野ダムに関して取り上げられると聞きました。立野ダムの建設に関しましては、慎重な判断をお願い致します。

立野ダムは想定外の洪水では機能しません

「想定外の災害のために立野ダムが必要だ」という意見があります。しかし、立野ダムの洪水を貯める容量は、想定した洪水を調節する分しかありません。今回の7.12洪水のような想定以上の洪水では立野ダム湖は満水になり、洪水調節不能となります。ダム湖に流入した水をそのままダム上部の8つの穴から非常放流することになり、「洪水調節ダム」として機能しなくなります。

ゲートのない「穴あきダム（流水型ダム）」である立野ダムが洪水調節をする場合も、洪水調節する時期と、洪水のピーク時が一致するとは限らず、むしろ一致しない場合（洪水調節に役に立たない場合）が多いと考えられます。



ダム上部に8つの非常放水用の穴がある立野ダム(国土交通省資料より)

ダムより河川改修が必要です

今回の7. 12洪水で浸水被害を受けた箇所は、河川改修が未完成の箇所ばかりです。熊本市では、河川整備計画で架け替えることになっている明午橋、竜神橋、吉原橋で川幅が狭まるなどして、洪水水位を押し上げました。国交省の直轄区間から外れている小碓橋より上流は、改修はほとんど手つかずの状況で、龍田地区右岸が特に大きな被害を受けました。ダム計画があるがために、河川改修がおろそかになっています。

ダムによらない治水対策が熊本にとって断然有利です

昨年10月14日の「立野ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場（第2回）」で、国土交通省は中流域の改修計画や、黒川流域の遊水地群などをダムに替わる治水対策として提案しました。

立野ダムの工期は、事業検証や白川漁協の同意など多くの手続きが完了して以降、最短でも10年かかると国土交通省は主張していますが、ダムが完成しないことには治水効果は得られません。河川改修などのダムによらない治水対策は、工事が完了した箇所から順に治水効果が得られます。

ダム本体は大手ゼネコンしか受注できませんが、河川改修などのダムによらない治水対策は地元業者が受注できます。コンクリートのダムをつくるのではなく、阿蘇の草原を守り、白川中流域の農業を守ることが、流域の災害対策や熊本の地下水の保全にもつながります。

立野ダムは土砂で埋まります

ご存じのように、洪水時の白川の水は大量の火山灰を含みます。昭和28年の6・26水害では、立野ダムの総貯水量の約3倍の2847万立方メートルもの土砂や火山灰が熊本市と白川水系沿岸の水田などに堆積しています（熊本県災害救助隊本部調べ 熊本日日新聞 昭和28年7月6日）。このことから、白川にダムを造っても、土砂や火山灰で埋まってしまうことは明らかです。

国土交通省は「立野ダムは穴あきダムで、通常は水を貯めない。土砂もたまらない」と説明しています。しかし、ダムが洪水時に水をためる場合、ダム湖に入って川の流れが止まるダム湖の上流端付近に大量の土砂を堆積させます。このことは、日本中どのダムを見ても明らかです。立野ダムが土砂に埋まれば、白川の治水対策はまたはじめからやり直しです。

穴あきダムは阿蘇の自然環境を破壊します

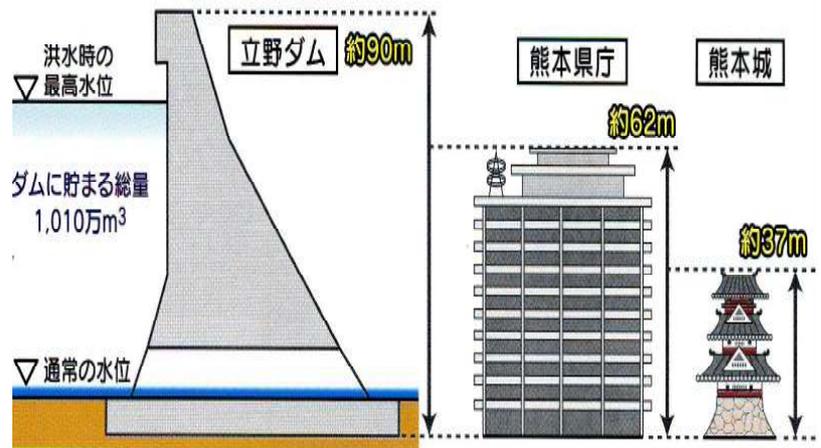
立野ダムは、阿蘇の玄関口である立野峡谷を含む、阿蘇くじゅう国立公園の36ヘクタールもの広大な自然を水没させます。水没する北向谷（きたむきだに）原始林は国指定の天然記念物です。また、立野ダム事業区域は阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区に指定されています。

阿蘇カルデラは、熊本が世界に誇る自然遺産です。国立公園の特別保護地区にダムを造るべきではありません。高さ90mのコンクリートの巨大構造物（立野ダム）は、世界遺産登録や

世界ジオパーク認定をめざす阿蘇にとって致命的なダメージとなります。阿蘇の価値が下がれば、熊本市も大きなダメージを受けます。



立野ダム本体建設予定地
V字谷の向こうは北向谷原始林



立野ダムの高さ(国土交通省資料より)

立野ダムで白川は濁り水になります

穴あきダムは洪水時に大量の土砂をため込み、周辺の山林を荒し、周辺の環境に大きなダメージを与えます。洪水が終わった後も穴あきダムであるために、たまった土砂が露出し、今度はたまった土砂が流れ出し、長期間下流の白川を濁します。このことは、川辺川上流の朴木(ほうのき)ダムや樅木ダムなどの穴あきダムの例を見ても明らかです。

県民1人あたり1万5000円の負担です

立野ダムは、ダム本体工事や仮排水路工事に着手されていないにもかかわらず、総事業費は当初予算の2倍以上の905億円に膨れ上がりました。河川法によると、立野ダムの総事業費の3割を熊本県が負担することになります。熊本県の負担額は905億円の3割、**約271億円**ということになります。**県民1人あたり約15000円**を立野ダムに負担することになります。川辺川ダムなどの例を考えるとさらに事業費が膨らむことが容易に考えられます。

熊本県の財政を圧迫し、熊本県民に膨大な負担を強い、環境への影響が甚大な割には治水効果が非常に小さい立野ダム建設を選ぶのではなく、より有効なダムによらない治水対策を選択すべきです。

以上、これからの白川の治水と立野ダムについて簡単に述べました。立野ダムを造っても熊本市には何の利益もありません。未来の子供たちに禍根を残さぬよう、立野ダムに関する判断はくれぐれも慎重にお願い致します。

紙面だけでは伝えきれませんので、直接スライドなどをお見せしてご説明する機会を作っていただけたら非常にありがたいです。どうぞよろしくお願い致します。